



東京都立墨東病院

連携だより

発行 東京都立墨東病院 事務局医事課
〒130-8575 東京都墨田区江東橋4-23-15
TEL: 03-3633-6151(代表)
http://www.bokutoh-hp.metro.tokyo.jp

VOL. 49



就任のご挨拶 さらなる医療連携の推進に向けて

平成26年4月1日付で、墨東病院内科系副院長に就任しました富山順治です。私は、丁度2年前の2012年4月に当院副院長から、都立広尾病院副院長として異動となり、今回再度、当院副院長として戻ってまいりました。都立広尾病院は病院激戦区にあり、そこでは病院運営の厳しさを学び、またいかに医療連携が大切であるかを再認識しました。私事で恐縮ですが、私は1980年に卒業後すぐに当院の内科初期臨床研修医として医者としての第一歩を踏み出しました。当時、都立病院も研修医制度を開始した第一期生です。そこで野戦病院のような当院で修業をし、内科常勤医として採用していただき、2年間母校の筑波大学で研究生生活を送り、再び当院内科医員となり、その後内科医長、内科部長、内科系副院長とらせていただき、今日に至っております。墨東病院は私を育ててくれた病院であり、また何よりも、地域の先生方が私を指導してくださいました。先日江東区医師会、岡本会長に就任のご挨拶に伺ったとき、会長室に歴代会長の写真が飾っており、松本先生、斎藤先生、井上先生と歴代会長にかわいがられ、ご指導を受けたことが思い出されました。思い返せば、墨東病院外来・病棟改築、引越しの時、地下鉄サリン事件、SARS対応、周産期問題、新型インフルエンザ対応、東日本大震災といった難局も、常に地域の医師会の先生方と協同で乗り切ったことを思い出します。



墨東病院内科系副院長
富山 順治

私が異動していた2年の間にも、当院は新棟増築を着々と進め、様々な医療課題を地域の医師会との協同で対処し、さらに医療連携も深まり、紹介率、逆紹介率も向上しております。また、墨田、江東、江戸川区医師会の会長も新しく就任され、私も医療連携担当となり、新体制のもと、益々当院と医師会との「顔の見える連携」をよろしくお願ひしたいと思います。平成26年8月には新棟がオープンし、救命救急センター、ERが新棟に移設され、IVR-CTシステム、高気圧酸素治療室設置等、さらに充実し、機能的なものとなります。また、感染症病棟、外来を新棟に移設し、設備を充実させ、新興感染症のパンデミック期にも独立して運営できる機能を持たせます。外来化学療法室も移設し、設備も充実させ、治療を受ける患者さんにより良い環境を提供します。さらには平成27年秋頃までに院内の改修も進め、救急専用CT・MRIの整備、SCU・HCUの新設、CCUの増床、ハイブリッド手術室、日帰り手術室の増設、透析ベッドを増やした腎センターの開設など多くの機能を持つ、新生墨東病院に生まれ変わりますので、期待しててください。

当院は「東京ER・墨東」や救命救急センターにおける救急患者受け入れ数は都内、国内でも有数であり、また災害医療でも、区東部災害医療コーディネーターを担当し、地域災害医療連携会議を開催し、災害拠点中核病院としての中心的な役割を今後も担ってゆきます。がん診療に関しましても、東京都認定がん診療病院として地域の先生方とがん患者の連携を通じ、区東部のがんセンターとしての役割を果たしてゆきます。がん相談支援センター、セカンドオピニオン外来、緩和ケア研修会を開催し、地域の先生方のニーズにお応えしますので、益々のがん患者さんのご紹介をよろしくお願ひします。また、感染症対策におきましても、「区東部感染症会議」を再開し、医師会、歯科医師会、保健所、薬剤師会等を含めた感染症対策を日ごろから話し合い、当院からは、感染症対策の講習会や感染防止対策連携カンファレンス等を通じて地域の感染症対策に取り組みたいと思います。

私は研修医担当でもあり、日ごろから、地域の医師会の先生方には、当院ジュニアレジデントの地域研修を快く受け入れていただき、感謝申し上げます。お忙しい中、熱心に指導してくださり、レジデントからの評判も良く、今後も臨床研修管理委員会等でのご指導も含め、よろしくお願ひしたいと思います。

墨東病院が様々な機能を発揮し、急性期病院として地域医療の充実に貢献するためには、地域医療機関との密接な医療連携が重要であることは言うまでもありません。これからも双方向性の医療連携をさらに推進、発展させ、地域医療の充実に向け、邁進したいと思いますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

墨東病院人事異動

【採用】平成26年4月1日付

循環器科医長	安倍 大輔	あべ だいすけ
耳鼻咽喉科医長	鈴川 佳吾	すずかわ けいご
内科医員	市野瀨慶子	いちのせ けいこ
内科医員	清原 克仁	いはら かつひと
内科医員	小林 克誠	こばやし かつまさ
循環器科医員	春成 智彦	はるなり ともひこ
小児科医員	伊藤まりえ	いとう まりえ
小児科医員	春日 悠岐	かすが ゆうき
小児科医員	武藤 智和	むとう ともかず
外科医員	下園 麻衣	しもぞの まい
外科医員	日吉 雅也	ひよし まさや
整形外科医員	永田 向生	ながた こうせい
整形外科医員	橋倉 一彰	はしくら かずあき
整形外科医員	保坂 陽子	ほさか ようこ
脳神経外科医員	清水 篤	しみず あつし
脳神経外科医員	土佐 将人	とさ まさと
産婦人科医員	池田真理子	いけだ まりこ
産婦人科医員	東上 加波	ひがしうえ かなみ
新生児科医員	森川 美佳	もりかわ みか
リハビリテーション科医員	新見 昌央	にいみ まさちか
救命救急センター医員	藤田 英伸	ふじた ひでのぶ
救命救急センター医員	山岸 利暢	やまぎし としのぶ
救命救急センター医員	湯川 高寛	ゆかわ たかひろ
麻酔科医員	益田 友里	ますだ ゆり
麻酔科医員	吉村 敦	よしむら あつし

【兼務】平成26年4月1日付

歯科口腔外科医師	田中 潤一	たなか じゅんいち
歯科口腔外科医師	伊藤 亜希	いとう あき
歯科口腔外科医師	重松 司朗	しげまつ しょう
産婦人科医師	小林 信一	こばやし しんいち
神経科医師	源田 圭子	げんだ けいこ
胸部心臓血管外科医師	輿石 晴也	こしいし はるや
小児科医師	吉橋 博史	よしはし ひろし
リウマチ膠原病科医師	陳 鵬羽	ちん ほうう
神経科医師	長島健太郎	ながしま けんたろう

【転入】平成26年4月1日付

副院長	富山 順治	とみやま じゅんじ
リウマチ膠原病科部長	西川 卓治	にしかわ たくじ

【昇任】平成26年4月1日付

内科医長	木下 博之	きのした ひろゆき
循環器科医長	弓場 隆生	ゆば たかお
小児科医長	玉木 久光	たまき ひさみつ
外科医長	稻田健太郎	いなだ けんたろう
整形外科医長	田中 祐治	たなか ゆうじ
脳神経外科医長	柳橋 万隆	やなぎばし かずたか
救命救急センター医長	亀倉 暁	かめくら さとる
救命救急センター医長	大倉 淑寛	おおくら よしひろ

【院内異動】平成26年4月1日付

感染症科医員	阪本 直也	さかもと なおや
--------	-------	----------

【退職】平成26年3月31日付

副院長	渡邊とよ子	わたなべ とよこ
リウマチ膠原病科部長	永島 正一	ながしま まさかず
内科医長	村山 巖一	むらやま みねかず
神経科医長	馬場 美穂	ばば みほ
外科医長	西川 武司	にしかわ たけし
リハビリテーション科医長	佐々木信幸	ささき のぶゆき
救命救急センター医長	石井 桂輔	いしい けいすけ
内科医員	八幡 真弓	やはた まゆみ
小児科医員	峯 佑介	あみ ゆうすけ
小児科医員	中島 園子	なかじま そのこ
外科医員	松田 真輝	まつだ まさき
整形外科医員	田崎 亮	たさき りょう
脳神経外科医員 (救命救急センター)	千葉謙太郎	ちば けんたろう
脳神経外科医員	平岡 史大	ひらおか ふみひろ
産婦人科医員	深澤 祐子	ふかざわ ゆうこ
新生児科医員	鹿嶋 晃平	かしま こうへい
新生児科医員	東 裕哉	ひがし ゆうや
耳鼻咽喉科医員	吉橋 理恵	よしはし りえ
麻酔科医員	真一 弘士	まかず ひろし
救命救急センター医員	神尾 学	かみお まなぶ
救命救急センター医員	靱負 耕史	ゆきえ こうじ
救命救急センター医員	竹田 悟宇	たけだ ごう

【退職】平成26年4月30日付

放射線科医員	泉 千尋	いずみ ちひろ
--------	------	---------

紹介予約のご案内

当院の受診は救急の場合を除き、紹介予約制を原則としています。

電話予約センター
TEL:03(3633)5511(直通)
受付時間 午前8:30～午後5:00

診療放射線科検査予約
MRI・CT検査 TEL:03(3633)6191(FAXと兼用)
RI検査・放射線治療 TEL:03(3633)6192(FAXと兼用)
受付時間 午前9:00～午後5:00

問い合わせ先
医事課「医療連携係」TEL:03(3633)6151(代表)内線2115
FAX:03(3633)7130

緊急の場合

緊急の場合は必ずご一報下さい

月～土 午前9時～午後5時
TEL:03(3633)6151(代)
当該診療科の救急当番医師

夜間、休日
TEL:03(3633)6151(代) ER担当

三次救急
TEL:03(3633)6151(代表)
救命救急センター

産婦人科



産婦人科部長
久具 宏司

墨東病院は、東京都区内東部地域の基幹病院として、また、東部地域唯一の都立の総合病院として、重要な役割を担っています。その中において産婦人科は、新生児科とともに東京都の総合周産期センターに指定されており、また、墨田、江東、江戸川の3区の周産期医療の砦として、多くの産科症例を受け入れています。

墨東病院周産期センターは、産婦人科に9床のMFICU（母体胎児集中治療室）、新生児科に15床のNICU（新生児集中治療室）を有しています。母体搬送の依頼があれば、空床状況にもよりますが、できるだけ搬送を受け入れることにしています。その結果、現在、都内の総合周産期母子医療センターにおいて、母体搬送の受け入れ件数は第1位となっています。母体搬送の依頼件数あたりの受け入れ率も70%以上と高いレベルを維持しています（図1）。当院における母体搬送受け入れ症例は、切迫早産や前期破水など、週数の早い小さい児の出生が予想される場合に限らず、多岐にわたります。外来診療は、他施設からの紹介症例のみ受け入れています。初診の妊婦さんは増加しています（図2）。その結果、分娩数全体も、最近増加しています（図2）。

胎盤位置異常、妊娠高血圧症候群の増悪、子宮筋腫合併妊娠、多胎などの産科的ハイリスク妊婦であり、入院など重要な管理が必要と考えられる症例、糖尿病、膠原病など、さまざまな領域の合併症を有して集学的な管理が必要とされる症例など、医学的にハイリスクと診断される症例はもちろんのこと、さまざまな状況から出生児の養育に困難が予測されるなど社会的にハイリスクと考えられる症例、精神疾患合併の症例などにも、医療ソーシャルワーカーの協力を得て、適切に対応しております。墨東病院産婦人科医師の中には、日本周産期新生児学会が認定する周産期専門医が在籍しており、また、日本超音波医学会が認定する超音波専門医、日本

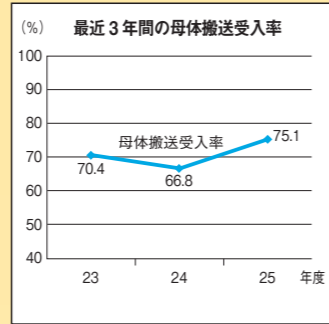


図1

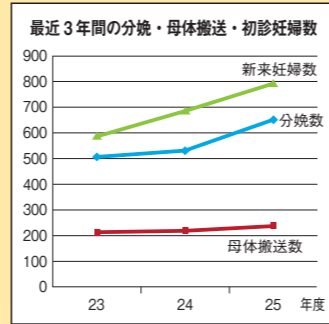


図2



人類遺伝学会が認定する臨床遺伝専門医も在籍しており、あらゆる産科症例への対応が可能です。糖尿病合併妊婦、胎児異常が疑われる症例、その他対応に苦慮される症例につきましては、お気軽にご相談ください。

平成26年度からは、日本婦人科腫瘍学会認定婦人科腫瘍専門医の着任を得て、婦人科領域、とくに悪性腫瘍の診療にも力を入れてまいります。墨東病院は、東京都区内東部におけるがん拠点病院と位置付けられており、婦人科領域における悪性腫瘍の診療の充実も期待されています。今後は、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌が疑われる患者さんを中心に積極的に受け入れてまいります。

これからの墨東病院産婦人科は、周産期領域においてはこれまで以上に、また新たに婦人科腫瘍領域においても地域の頼れる病院でありたいとスタッフ全員努力してまいります。今後とも皆様のご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ER等の新棟への移転に伴う御協力をお願い

感染症診察機能、ER機能等を下記のとおり新棟へ移転します。御迷惑をお掛けしますが御理解、御協力をお願い申し上げます。

新棟へ移転する機能	移転実施日	移転に伴う対応
感染症科外来	6月24日(火) 9:00～17:00まで	●左記の期間、感染症科の予定入院及び緊急入院の受入を停止します。
感染症科病棟	6月25日(水) 9:00～17:00まで	●1類、2類感染症等近隣の医療機関で受入困難な疾病は受入れます。
ER	7月2日(水) 9:00～ 7月3日(木) 17:00まで	●左記の期間、1次救急及び2次救急を休止します。 ●3次救急は対応いたします。

※救命救急センターも新棟に移転しますが詳細は決まり次第、別途お知らせいたします。

新棟開設のご案内

墨東病院では、感染症医療・救急医療・総合診療基盤の充実強化を図るため、平成23年度から増改修整備に取り組んでおります。これに伴い、平成24年に着工いたしました地上12階・地下2階からなる新棟がこの4月に竣工となりました。

5月31日(土)には新棟開棟式を行い、多くのご来賓の方々にご出席、ご祝辞をいただきました。引き続き行われました内覧会においても、地域医師会の先生方を始めとする大勢の皆様にご参加いただき、無事終えることができました。ありがとうございました。

ここで当院新棟の開設による3つの医療機能の強化についてご案内いたします。

1 感染症診療機能の強化

- 新型インフルエンザにも対応する感染症患者専用の「感染症外来」を設置します。
- エボラ出血熱やSARS等の患者を受け入れるため、第一種感染症病床2床、第二種感染症病床8床を整備するほか、陰圧を制御した感染症緊急対応病床の整備を行い、感染症対策を更に拡充します。
- この整備により、独立病棟で新型インフルエンザ等の海外発生期・国内発生期・都内発生期といった段階に応じた受け入れを行ってまいります。

2 救急対応の強化

- 救命救急センターは、「救命救急特定集中治療病床」を増設し、重篤な救急患者を集中的に治療します。
- CT検査と血管撮影が同室で行える「IVR-CTシステム」を備えた救命撮影室（初療室）や「高気圧酸素治療室」の新設、さらに、既存棟の改修時には脳卒中ケアユニット（SCU）、ハイケアユニット（HCU）を新

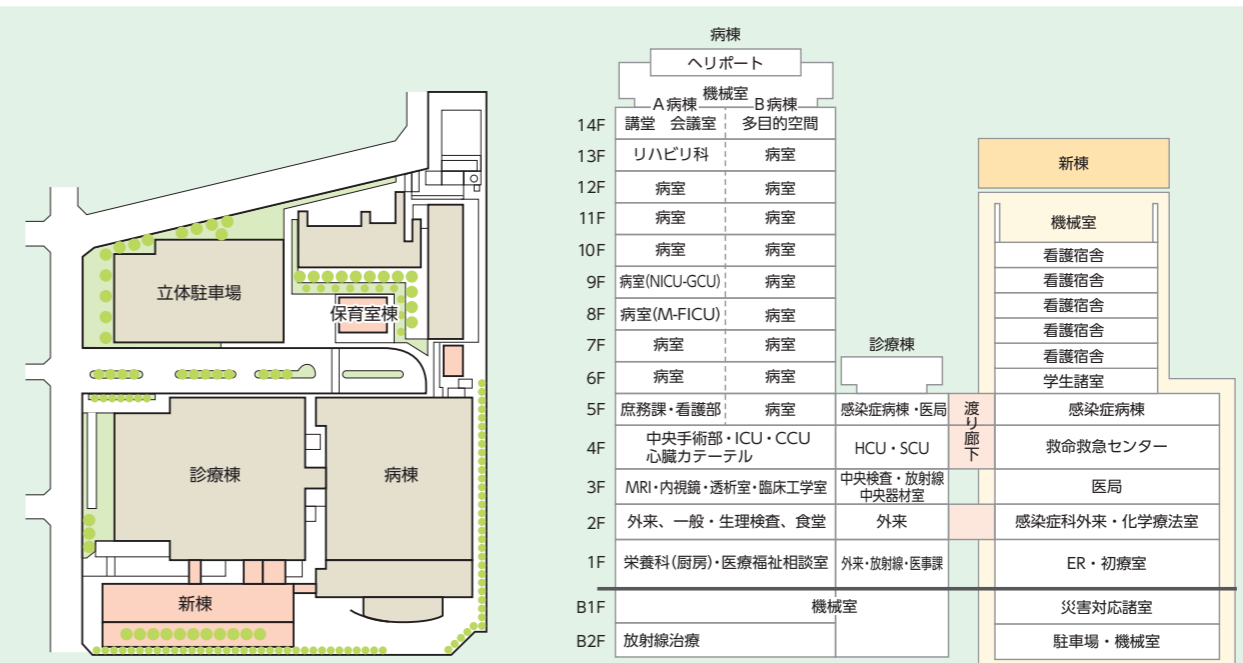
設するとともに、心疾患ケアユニット（CCU）を増設し、重篤な救急患者の治療効果を高めます。また、入院直後から急性期リハビリテーションを実施し、早期回復を目指します。

3 総合診療基盤の強化

- 外来通院でも安全・快適に抗がん剤治療ができる「外来化学療法室」を設置します。また、医師や看護師等のスタッフが個々の患者の治療法を議論するカンサーボード（がんの症例検討会議）を積極的に開催し、治療の選択肢を広げるとともに、治療レベルの向上を進めます。
- 入院前に検査や手術の説明を行い、患者・家族の不安に対して支援する「術前サポートセンター」を拡充し、「患者支援センター」として発展させます。退院後の外来フォロー、在宅移行を支援するとともに、地域の医療機関や施設等との協働を推進し、これまで以上に、患者サービスの向上、医療連携を推進していきます。
- 日帰り手術のニーズに応える「日帰り手術室」の整備を進めるとともに、透析を必要とするがん患者や救急患者に、よりの確に対応できるよう、透析室の拡充を図り、きめ細かなサービスの提供に努めます。

以上の3つの医療機能強化のほか、非常用発電機の増設や給水ルートを二重化し、災害対応力を強化します。また、地元出身の葛飾北斎の版画（複製）の展示や多言語対応など、療養環境の整備に取り組みます。

今後も、都民の皆様様の生命と健康を守るため、職員一同一丸となって邁進してまいります。皆様のご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。



既存棟の改修規模
改修面積：約5,400㎡
(診療棟：約2,800㎡ 病棟：約2,600㎡)

新棟の構造・規模
構造：SRC造（一部S造）・耐震構造
規模：建築面積：1,507.88㎡ 延床面積：12,814.42㎡
地上12階 地下2階、耐火建築物